専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	担任	
科目名	総合演習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数（予定）	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。

◆概要　クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画　等

3．履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示します。

4．使用教材（テキスト等）

学生の手引き等

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出席時間、取り組みにより評価

6．その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング１		必修・選択	選択必修	
単位数	１単位	授業形態	講義	年次	１年
総授業数（予定）	１７コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

１．授業の到達目的と概要

◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備（履歴書作成など）とキャリア教育（各種自己分析など）を通じて実践的なレベルを目指す。
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。

２．授業内容　（週単位で記入）

第1週	「キャリア」とは、２年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」
第2週	ライフライン分析とキャリアパス
第3週	「職業興味と職業適性」
第4週	履歴書作成①　履歴書とは、履歴書左側を記入・作成
第5週	履歴書作成②　履歴書右側を記入・作成 「ジョハリの窓」
第6週	履歴書作成③ 「エゴグラム」 自己PR作成
第7週	履歴書作成④ 「能力と適性」 自己PR作成
第8週	履歴書作成⑤ 「良いところさがし」 自己PR作成
第9週	中間テスト　模擬履歴書の作成
第10週	企業研究①こんな仕事をしてみたい、雇用条件は
第11週	企業研究②（求人票を使って）求められる人材とは
第12週	履歴書作成⑥　仮志望動機の作成
第13週	履歴書作成⑦　仮志望動機の作成
第14週	履歴書作成⑦　仮志望動機の作成
第15週	一般教養とSPI
第16週	一般教養とSPI
第17週	期末テスト　履歴書の作成

３．履修上の注意

筆記用具を持参

４．使用教材（テキスト等）

プリント教材
5. 単位認定評価方法
評価基準：絶対評価OR相対評価 絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容
6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	清水	
科目名	情報リテラシー1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定３級」および「文書デザイン検定３級」以上の検定合格を目標とする
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。７月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング
第2週	プリンターの設定
第3週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第4週	ワープロ検定準2級・2級程度の問題解法 個別問題演習
第5週	ワープロ検定準1級・1級程度の問題解法 個別問題演習
第6週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第8週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第9週	中間試験 ワープロ検定準2級程度の問題
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第11週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第12週	問題演習およびワープロ検定
第13週	文書デザイン検定3級および2級程度の問題解法 個別問題演習

第14週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第17週	期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題

3. 履修上の注意

授業課題の提出あり（MITファイルサーバへ）
欠席（公欠含む）した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。
課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。
授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。

4. 使用教材（テキスト等）

マイクロソフトWord
授業配布プリント
検定過去問題のプリント

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

授業態度２０％、中間・期末試験５０％、課題・小テスト３０％

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。

6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物美容学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマーとしての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	グルーミングの必要性と目的、グルーマー(トリマー)としての心構え
第2週	グルーミングの流れ・犬の扱いについて・犬の保定と安全管理
第3週	ネイルケア、イヤケア、クリッピング（下腹部、足裏、肛門周囲）
第4週	ベイジング、ドライング方法（目的　手順　注意点）
第5週	グルーミング用語・スタイルの取り方・リボンの作り方
第6週	犬体名称
第7週	犬の皮膚と被毛
第8週	グルーマーが知っておくべき疾患
第9週	中間試験
第10週	トリミング犬種とグルーミング犬種について
第11週	グルーミング犬種（各部分カット）
第12週	シャンプーについて
第13週	道具について
第14週	パピー、シニアのグルーミング
第15週	問題犬？の扱い方
第16週	問題犬？の扱い方
第17週	期末試験

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6．その他
講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	N1T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小山	
科目名	生命倫理・動物福祉		必修・選択（注記）	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。

◆概要　生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5R、3Rを理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	生命倫理の概念
第2週	生命倫理と獣医療の関わり
第3週	動物福祉の定義と実際
第4週	動物福祉の定義と実際
第5週	動物愛護と動物福祉　:世界と日本の始まりから近代への愛護運動の歴史と現代における動物愛護の思想と課題
第6週	動物の福祉と動物の権利
第7週	五つの自由について
第8週	中間試験
第9週	愛玩動物の福祉　：　国内外の動物保護の活動と実情
第10週	愛玩動物の福祉　：　殺処分やネグレクト、結果としてのホーダー等の虐待について　生命倫理、愛護、福祉の思想を交え実情と課題について理解し考察する
第11週	愛玩動物の福祉　:適正飼養と福祉上の問題と対策
第12週	災害時の動物福祉
第13週	産業動物の福祉　5Rの原則
第14週	実験動物の福祉　3Rの原則
第15週	展示動物の福祉　環境エンリッチメント
第16週	動物福祉の行動学的指標と生理学的指標 まとめ
第17週	期末試験

3．履修上の注意

ペットライフケア学科１年生と動物看護師学科１年生の合同授業

4．使用教材（テキスト等）

パワーポイント資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価
出欠席数　10%　試験点数70%　授業態度(積極性等)10%　課題提出状況等10%
をもって評価とする。

6. その他

動物病院における、来院動物、入院動物に対する福祉を実践してきた経験や震災後の動物保護シェルターでのボランティア活動等の経験を活かし、福祉や愛護、動物との共生について授業を行う

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	得地	
科目名	動物関連法規		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	各法律と動物取扱業との関わりについて理解したうえで、公益社団法人日本愛玩動物協会主催の愛玩動物飼養管理士検定試験2級に合格する。 法律を通して人と動物の共生のために必要な配慮と行動を具体的に理解する。
◆概要	動物や動物取扱業に関連するさまざまな法規について学ぶことで、動物取扱業者としての心得や人と動物の共生の在り方を理解する。 実際に法律が適用される場面等を紹介することで、法律を身近なものとして捉えられるようにする。 実在する法律について学ぶ前に、動物関連の法としてどのような決まりが必要だと思うかを考え、自ら学べる場を作る。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	動物医療関連法規オリエンテーション テキストの確認、学習内容の確認、法律の概要
第2週	法律概論 法の体系について、制定と改廃のしくみ
第3週	動物の愛護及び管理に関する法律① 目的、基本原則、動物愛護週間、基本指針、動物の所有者・占有者の責務、 飼養保管基準、第一種・第二種動物取扱業、動物販売業者、特定動物、 犬猫の引取りと負傷動物、繁殖制限、動物愛護週間、虐待と罰則　等
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	
第8週	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律/狂犬病予防法 目的、定義、規制/目的、対象動物、検疫、罰則
第9週	前期中間試験
第10週	身体障害者補助犬法 目的、定義、補助犬の同伴
第11週	廃棄物の処理及び清掃に関する法律/化製場等に関する法律 目的、定義、禁止事項/定義、規制内容、多頭飼育等の許可
第12週	野生動物等に関する法律および条約 外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、 自然公園法、文化財保護法　等
第13週	
第14週	
第15週	

第16週	
第17週	前期期末試験

3．履修上の注意

教科書と資料を併用し、愛玩動物飼養管理士2級に頻出される法律を中心的に進めていく。
過去に起きた裁判の事例などを紹介しながら興味を持たせる。
定期的に確認小テストを行う。

4．使用教材（テキスト等）

愛がん動物飼養管理士2級教本・課題問題集

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%

6．その他

動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1・U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村	
科目名	犬種概論		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	犬種標準（スタンダード）のサイズ・重要な比率・一般外貌・沿革・特長・性格・被毛・毛色・各部の特徴・歩様について学び知見を深める。
◆概要	犬種標準を基にトリミングを行うため、最新犬種図鑑163犬種掲載の中から、シザーリング犬種・スイニング犬種・プラッキング犬種および頻繁に取り扱う犬種に焦点をおき、犬種の特徴や美観をトリミングに活かすことができる。 また、性格・被毛・歩様などから健康状態を把握することもできるため、犬を適切に扱うことができる。

2．授業内容　（週単位で記入）	
第1週	犬種標準学概論 犬種どれだけ知ってる？ケネルクラブとスタンダード、血統書、
第2週	犬種 用途、ルーツ、グループ分け（第1～第10グループ）
第3週	ドッグショー 歴史、年齢区分、審査基準、流れ
第4週	第1グループ　ボーダー・コリー／シェットランド・シープドッグ／コーギー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第5週	第2グループ　バーニーズ・マウンテン・ドッグ／グレート・ピレニーズ／ミニチュア・シュナウザー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第6週	第3グループ　ジャック・ラッセル・テリア／ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア ヨークシャ・テリア 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第7週	第4グループ　ダックスフンド 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第8週	第5グループ　日本犬（秋田・北海道・甲斐・紀州・四国・柴）　日本保存会について ポメラニアン／シベリアン・ハスキー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第9週	中間試験
第10週	第6グループ　ビーグル／ダルメシアン 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴、
第11週	第7グループ　イングリッシュ・ポインター／アイリッシュ・セター／ワイマラナー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第12週	第8グループ　アメリカン・コッカー・スパニエル／イングリッシュ・コッカー・スパニエル イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第13週	第8グループ　ゴールデン・レトリーバー/ラブラドール・レトリーバー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第14週	第9グループ　ビション・フリーゼ／プードル／マルチーズ 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第15週	第9グループ　キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル／フレンチ・ブルドッグ/シー・ズー 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴

第16週	第10グループ　ボルゾイ／アイリッシュ・ウルフハウンド／デザイン・ドッグについて 沿革、サイズ、特徴・性格、被毛・毛色、各部の特徴
第17週	期末試験

3．履修上の注意

確認小テスト等で理解度を確かめながら進める。

4．使用教材（テキスト等）

最新犬種図鑑（写真で見る犬種とスタンダード）

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%

・中間・期末試験　70%

6．その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬は人によって作出された動物であり、現代社会においてのメリット/デメリットについても指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	本橋	
科目名	愛玩動物学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	代表的な犬、猫の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、動物の健康保持・増進を補助する知識を養う。また、愛玩動物飼養管理士２級の取得を目指す。
◆概要	犬猫の品種や習性を理解した上で、日々の適切な飼育管理、安全な散歩・運動、基本的グルーミング、被毛の手入れ、口腔内衛生管理、健康診断の内容や目的等。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	愛玩動物飼養管理総論　伴侶動物の定義 終生飼養について
第2週	伴侶動物の種類と歴史
第3週	犬の品種と特徴
第4週	犬の品種と特徴
第5週	犬の飼養管理　健康管理・適した住環境・人との関わり
第6週	犬の飼養管理　健康管理・適した住環境・人との関わり
第7週	犬の飼養管理　健康管理・適した住環境・人との関わり
第8週	犬の飼養管理　健康管理・適した住環境・人との関わり
第9週	中間試験
第10週	猫の品種と身体的・生態的特徴
第11週	猫の品種と身体的・生態的特徴
第12週	猫の飼養管理　　健康管理・適した住環境・人との関わり
第13週	猫の飼養管理　　健康管理・適した住環境・人との関わり
第14週	猫の飼養管理　　健康管理・適した住環境・人との関わり
第15週	猫の飼養管理　　健康管理・適した住環境・人との関わり
第16週	エキゾチックアニマルオリエンテーション テキストの確認、定義、飼育する理由・問題点
第17週	期末試験

3．履修上の注意

教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく
グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと
課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること

4．使用教材（テキスト等）

愛玩動物飼養管理士２級テキスト
予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席状況１０％　・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)２０％
・中間・期末試験７０％

6. その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者
動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	N1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物行動学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。犬と猫の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。
◆概要	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、動物に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物業界従事者の知識の中に動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的な健康の大切さに注目している。『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ者が、専門職として求められる。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	動物行動学概論　行動学とは　行動学の歴史　4つの問い（適応・進化・機構・発達）
第2週	生得的行動　習得的行動
第3週	脳による行動制御
第4週	犬学　犬種と行動変化・行動特性
第5週	犬学　犬種と行動変化・行動特性
第6週	猫学　猫種の作出と歴史　行動変化・行動特性
第7週	犬と猫の行動学的特徴
第8週	行動の動機づけ　神経伝達物質
第9週	発達行動学　（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）および社会化
第10週	発達行動学　（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）および社会化
第11週	発達行動学　（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）および社会化
第12週	発達行動学　（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）および社会化
第13週	犬と猫の維持行動
第14週	犬と猫の社会行動
第15週	犬と猫の社会行動
第16週	犬と猫の社会行動
第17週	期末試験

3．履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う
授業内でデータ整理、発表を行うためワード（エクセル）、パワーポイントのリテラシーが必要となる
グループでテーマ検討・発表をする場合もある
事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある
課題は提出期限を守ること

4．使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト4巻
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　15%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）　15%

・課題発表（中間・期末）　70%

6. その他

講師：動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、主に犬猫の行動様式、行動の種類とその理由、犬猫の発達、行動学に基づいたトレーニングの必要性などについて指導する。

学科コード	T1・U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村	
科目名	ハズバンダリー実習Ⅰ		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。
◆概要	犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディーランゲージを読み取れるようになること。 QOL（生活の質）を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。

2．授業内容　（週単位で記入）	
第1週	犬ってどんな動物　　ハズバンダリートレーニングとは　　その必要性は
第2週	犬のボディーランゲージを知ろう　　犬の立場になって考える
第3週	犬具の選び方　　リードの持ち方と扱い方　　犬との接し方
第4週	年齢別（幼齢期・青年期・成犬期・老齢期）の接し方と扱い方
第5週	ハズバンダリートレーニング　①
第6週	ハズバンダリートレーニング　②
第7週	ハズバンダリートレーニング　③
第8週	ハズバンダリートレーニング　④
第9週	ハズバンダリートレーニング　⑤
第10週	ハズバンダリートレーニング　⑥
第11週	ハズバンダリートレーニング　まとめ
第12週	基本トレーニング　①
第13週	基本トレーニング　②
第14週	基本トレーニング　③
第15週	基本トレーニング　④
第16週	基本トレーニング　⑤
第17週	最終確認試験

3．履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

４．使用教材（テキスト等）
補助プリント筆記用具
５．単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する
６．その他
講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村・福澤・本橋・上條・得地	
科目名	グルーミング実習基礎1		必修・選択	必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬の扱い・道具の扱いの他、掃除や接客方法など、グルーミングに関するあらゆる重要な基礎の習得。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、現場で必要となる接客（言葉遣い、立ち居振る舞い、身なり）に関する基礎を身に付ける。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	自己紹介・実習着配布・実習について心構え・身だしなみチェック・持ち物チェック・道具配布・実習資料の説明・草取り・道具の場所・掃除方法・ペット棟の使い方
第2週	実習資料について・ブラッシング練習（ウィッグ）・実習の流れ説明・カルテの出し方・受付練習・各道具の使い方
第3週	ゲージの使い方・犬の抱き方・リードの付け方・大型犬の扱い方・受付練習
第4週	受付・ブラッシング・爪切りの練習
第5週	学校犬で実習
第6週	グルーミング実習（BigPawお客様開始）
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	グルーミング実習
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

４．使用教材（テキスト等）
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具
５．単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 ・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20% ・技術的評価（接客・トリミング）　60%
６．その他
講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	動物美容実習基礎1		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。
◆概要	グルーミング実習1で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	トリミング実習 練習用マネキンの組み立て・ブラッシング・ライン描き
第2週	トリミング実習 練習用マネキンのブラッシング・リボン付けの練習・ライン描き
第3週	トリミング実習 練習用マネキンでハサミの練習・ライン描き
第4週	トリミング実習 練習用マネキンのカット・クリッピング・ライン描き
第5週	トリミング実習 練習用マネキンのカット・クリッピング・ライン描き
第6週	トリミング実習（BigPawお客様開始） 講師によるデモンストレーション
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	トリミング実習
第10週	トリミング実習 中間試験
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング基礎1		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。
また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。

◆概要　犬のトレーニングの知識習得および実技を行う
実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	しつけ学　犬の観察の必要性と重要性　問題行動とは 実習中の犬の管理法　必要な用具　カウンセリングシート記入
第2週	より良い共同生活のために　犬の欲求を満たす 理想的な犬との関係　リーダー　アルファ　上下関係　主従関係　親子関係
第3週	犬のトレーニング法　強制法　陽性強化法　強化子
第4週	犬具紹介　慣らし方　リードワーク（持ち方　テンション）　報酬の使い方
第5週	人の“手”の持つ意味　イメージ　マズルコントロール　アルファロール ハンドフィーディング　コング　ほめ方
第6週	トレーニング理論　古典的条件付け　声　クリッカー 遊びの重要性　遊び方
第7週	トレーニング理論　古典的条件付け　声　クリッカー 遊びの重要性　遊び方
第8週	トレーニング理論　オペラント　連続強化 誘導　グーの手についてくる　マグネット　おいで
第9週	トレーニング理論　オペラント　連続強化 誘導とターゲットタッチ　おいで
第10週	トレーニング理論　オペラント　部分強化 おすわり　誘導　ハンドシグナル
第11週	トレーニング理論　オペラント　復習 おすわり　ハンドシグナル　つぎ込み
第12週	トレーニング理論　オペラント　復習 おすわり　声符
第13週	しつけに必要な理論　馴化　鋭敏化　脱感作　般化・・・） おすわり　ふせ　たて　様々な姿勢からの誘導
第14週	しつけに必要な理論　馴化　鋭敏化　脱感作　般化・・・） おすわり　ふせ　たて　様々な姿勢からの誘導
第15週	犬のストレス　ボディランゲージ　カーミングシグナル　転位行動　転嫁行動 ふせ・たて　誘導⇒ハンドシグナル⇒声符　部分強化
第16週	犬のストレス　ボディランゲージ　カーミングシグナル　転位行動　転嫁行動 ふせ・たて　誘導⇒ハンドシグナル⇒声符　部分強化
第17週	期末試験

３．履修上の注意
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本（５つの自由）を考慮して適正に扱うこと
４．使用教材（テキスト等）
動物看護コアテキスト4巻 犬のしつけ学
５．単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 ・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30% ・中間・期末試験　60%
６．その他
講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング２		必修・選択	選択必修	
単位数	１単位	授業形態	講義	年次	１年
総授業数（予定）	１７コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

１．授業の到達目的と概要

◆到達目標　キャリアプラニング１をベースに、就職活動をより円滑に進めるための実務の実践的レベルを目指す。

◆概要　面接と電話応対を中心に、求人票の見方や企業情報の収集にも力を入れる。送付状や封筒の記入など実践直前の内容となる。

２．授業内容　（週単位で記入）

第1週	ビジネスマナーと面接について
第2週	面接練習①
第3週	面接練習②
第4週	面接練習③
第5週	電話応対①
第6週	電話応対②
第7週	電話応対③
第8週	リクナビを活用した就活講座
第9週	中間テスト　一般教養とSPI
第10週	リクルートスタイル講習会
第11週	就活用写真撮影
第12週	企業情報収集とビジネスマナー
第13週	就職ラリー準備
第14週	送付状、お礼状、封筒の記入①

第15週	送付状、お礼状、封筒の記入②
第16週	求職票の作成
第17週	期末テスト　求職票の作成（清書）

3．履修上の注意

筆記用具を持参

4．使用教材（テキスト等）

プリント教材

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価OR相対評価

絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容

6．その他

「リクナビ登録・就活講座」、「リクルートスタイル講習会」、「就活写真撮影」は外部との調整上、スケジュールが前後したり、その影響で他のスケジュールが動く場合があります。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	清水	
科目名	情報リテラシー2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる
日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定合格を目標とする

◆概要　表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、12月の検定は希望受験とする。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	検定問題対策 個別問題演習
第2週	検定問題対策 個別問題演習
第3週	検定問題対策 個別問題演習
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第5週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第6週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第7週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習
第9週	中間試験 表計算検定準2級程度の問題
第10週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習

第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第17週	表計算検定 （期末試験兼ねる）

3．履修上の注意

課題の提出あり（MITファイルサーバへ）
欠席（公欠含む）した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する

4．使用教材（テキスト等）

マイクロソフトWord,Excelを使用
授業配布プリント
検定過去問題のプリント

5．単位認定評価方法

評価基準：

絶対評価を原則とする　出席10点、授業内評価（授業態度・課題提出状況）40点、
中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点　の100点満点

6．その他

※注　検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する
また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑　竹村	
科目名	動物飼養管理学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

１．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	愛玩動物飼養管理士試験２級の合格を目指す。その後、飼い主様に相談されることも多い、適正な食事内容、フードの与え方、肥満の予防など栄養に関する飼育管理についての知識をつける。
◆概要	愛玩動物飼養管理士２級の受験終了までは愛玩動物飼養管理士試験対策を念頭に入れた飼養管理と栄養学を学ぶ。成長段階に合わせた適正な食事、フードに関する知識、必須の栄養素、肥満予防について栄養学の基礎を学ぶ。

２．授業内容	（週単位で記入）
第1週	犬猫の飼養管理 エキゾチック動物の生態と飼養管理 うさぎの特徴と飼養管理 フェレットの特徴と飼養管理 チンチラの特徴と飼養管理 鳥類（インコ・オウム・アヒル・鶏・手乗り鳥）の特徴と飼養管理 ムカシトカゲ目の特徴と飼養管理 ワニ目の特徴と飼養管理 カメ目の特徴と飼養管理 トカゲ類の特徴と飼養管理 ヘビ類の特徴と飼養管理
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	中間試験
第8週	栄養学総論　　動物における栄養の重要性と栄養の概念
第9週	食べてはいけない物・食べるべきもの　　動物の体に害をなす成分と動物種ごとの必須栄養素
第10週	食べてはいけない物・食べるべきもの　　動物の体に害をなす成分と動物種ごとの必須栄養素
第11週	５大栄養素　　３大栄養素
第12週	６大栄養素　　ビタミン・ミネラル・水
第13週	フードの選び方・与え方　　フードの種類・成長段階・ＢＣＳ
第14週	フードの選び方・与え方　　カロリー計算・給与量の計算
第15週	栄養学における【肥満】
第16週	肥満のもたらすものとその予防・管理
第17週	期末試験

３．履修上の注意
４．使用教材（テキスト等）
愛玩動物飼養管理士２級テキスト パワーポイント資料
５．単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う
６．その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	本橋	
科目名	愛玩動物学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	近年増加しつつあるコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレットの他、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、その種本来の習性に則した飼育方法の習得を目指す。また、飼い主に対し、適切な飼養指導が行える知識を養い、実践で発揮できることを目標とする
◆概要	伴侶動物の歴史、品種、飼育管理法、エキゾチック動物の生態について理解する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	ウサギ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法　代表的な疾患
第2週	フェレット 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法　代表的な疾患
第3週	ハムスター 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法　代表的な疾患
第4週	チンチラ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾患
第5週	モルモット・ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾患
第6週	インコ・オウム類とフィンチ類 生態と習性、一般的な飼育方法 インコ・オウム類とフィンチ類の違い　生理学的データ　代表的な疾患
第7週	
第8週	
第9週	中間試験
第10週	犬猫のライフステージにおける健康管理
第11週	犬猫のライフステージにおける健康管理
第12週	犬猫のライフステージにおける健康管理
第13週	犬猫のライフステージにおける健康管理
第14週	犬猫の感染症とその予防(感染症とは・感染症予防。ワクチネーションプラグラム等)
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

愛玩動物飼養管理士2級で頻出されるエキゾチックアニマルの問題に
関連する範囲を中心的に行っていく。事後学習を怠らないよう心がけること

4．使用教材（テキスト等）

愛玩動物飼養管理士２級テキスト
予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席状況１０％　・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)２０％
・中間・期末試験７０％

6. その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者
動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1・U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物行動学2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	今までに習得した行動学の知識を基に、行動を作る学習理論と基本的なﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ法について理解する。また、犬猫で発現する主な問題行動における、問題行動の種類や治療法、トレーニング法について理解し、問題行動を予防するための環境エンリッチメントなど、適切な飼育管理法についてさらに理解する。
◆概要	動物がどのように学習するのか、『学習の起こる仕組み』と『脳の特徴』について学ぶ。 問題行動の種類と治療法、分離不安等に使用する薬剤、問題行動予防と行動の修正について学ぶ

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	しつけ・トレーニングの理論と応用　学習理論
第2週	しつけ・トレーニングの理論と応用　学習理論
第3週	しつけ・トレーニングの理論と応用　学習理論
第4週	しつけ・トレーニングの理論と応用　学習理論
第5週	犬と猫のコミュニケーション
第6週	犬と猫のコミュニケーション
第7週	中間試験
第8週	犬と猫のコミュニケーション
第9週	問題行動総論　　定義　要因（遺伝的　生得的　環境）
第10週	問題行動総論　　定義　要因（遺伝的　生得的　環境）
第11週	問題行動総論　　定義　要因（遺伝的　生得的　環境）
第12週	問題行動修正と予防　飼い主指導
第13週	問題行動修正と予防　飼い主指導
第14週	問題行動修正と予防　飼い主指導
第15週	行動診療　コンサルテーション　薬物療法
第16週	行動診療　コンサルテーション　薬物療法
第17週	最終確認試験

3．履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う
授業内でデータ整理、発表を行うためワード（エクセル）、パワーポイントのリテラシーが必要となる
グループでテーマ検討・発表をする場合もある
事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある
課題は提出期限を守ること

4．使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト4巻
愛玩動物飼養管理士2級教本
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価　15%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)　15%

・課題発表(中間・期末)　70%

6. その他

講師:動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、行動を作る過程と学習の起こる仕組み、問題行動概論について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林　和愛	
科目名	動物美容学2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマー（トリマー）としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	サロンの一日
第2週	プードルのペット・クリップとショークリップについて
第3週	
第4週	
第5週	シュナウザーについて
第6週	
第7週	
第8週	中間試験
第9週	Aコッカ―にいついて
第10週	各犬種のトリミングポイント
第11週	サロントリマー検定に向けて（マネキン使用）
第12週	
第13週	ベアカットについて
第14週	サロントリマー検定について　　概要説明　過去問題と解説
第15週	
第16週	
第17週	サロントリマー検定2級　（筆記）

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物飼養管理学2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

１．授業の到達目的と概要

◆到達目標	野生動物の分類と生物多様性、鳥獣害の現状と意義、絶滅危惧種についての理解、外来生物と生態系への影響、展示動物と動物園の役割と意義等について理解する。
◆概要	野生動物と展示動物に関する基礎的な知識を現実を通して学ぶ。正解の得られない世界でもあるのでワークショップという議論型式を採用しながら理解を深めてもらいたい。

２．授業内容　（週単位で記入）

第1週	野生動物の分類、生物多様性
第2週	ワークショップ
第3週	鳥獣害と対策
第4週	ワークショップ
第5週	絶滅危惧種と保全
第6週	ワークショップ
第7週	外来生物と生態系
第8週	ワークショップ
第9週	野生動物救護
第10週	ワークショップ
第11週	展示動物と動物園1
第12週	展示動物と動物園2
第13週	ワークショップ
第14週	動物園における動物の管理
第15週	動物園における施設管理
第16週	ワークショップ
第17週	最終評価試験

３．履修上の注意

法律や社会的問題についても扱うので新聞等の情報も広く学んでおくこと。

４．使用教材（テキスト等）

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻　比較動物学　第3章・第4章　野生動物、展示動物

５．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出席状況および筆記試験結果の総合評価

６．その他

講師：現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科（動物看護師養成学科）及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	腰原	
科目名	動物業界演習		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	・生体を扱う上で形態的に最低限必要な知識を身に着ける。 ・犬を中心とした、細胞・組織・各臓器の形態や機能を理解する。 ・遺伝の仕組みや免疫の仕組みを理解する。
◆概要	動物の生命維持の仕組みを学び、生命体としての動物を細胞・組織・臓器レベルの各階層で理解する。 人間や他の動物と比較しながら動物の形態等を学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	動物業界演習総論授業について・ペットトリミングと獣医
第2週	動物病院ってどんなところ？
第3週	体が動く仕組み　骨どうして犬は大の字で寝れないの？
第4週	体が動く仕組み　筋肉ボディービルダー犬がいるってホント？
第5週	細胞が体を作る仕組み　細胞と組織体を作る細胞の数は○○○個！
第6週	体を覆うもの仕組み　上皮と表皮体を覆うミクロの世界
第7週	体中に血液を送る仕組み　循環器ホリンは超！高血圧、脳出血で死なないワケ
第8週	体を中を流れる液体の仕組み　体液液体中を流れるたくさんの戦士
第9週	尿を作る仕組み　泌尿器血液から尿への華麗なる変身
第10週	体を正常に保つ仕組み　脳と神経体中をめぐるリニアモーターカー、秒速○○○m！
第11週	体を正常に保つ仕組み　ホルモン恋心も貧血もホルモンの操作されている！
第12週	体に酸素を取り込む仕組み　呼吸器鳥の肺は11個ある？
第13週	物を食べる仕組み　消化器逆立ちしても物は飲み込める？
第14週	物を感じる仕組み　感覚器ヌはどうして真っ暗でもぶつからないの？
第15週	子供を作る仕組み　生殖器タはどうして20匹も妊娠できるのか
第16週	遺伝の話親子が似るのはなぜ？
第17週	免疫の話レルギーってなーに？

3．履修上の注意

・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意する事。

4．使用教材（テキスト等）

パワーポイント

５．単位認定評価方法
評価基準：相対評価 ・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20% ・中間・期末試験　70%
６．その他 講師：獣医師として産業動物および小動物の臨床に従事している経験を生かし、動物を取り扱うものが習得しておくべき形態機能学について指導する。

学科コード	T1・U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村	
科目名	ハズバンダリー実習Ⅱ		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。
◆概要	犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディーランゲージを読み取れるようになること。 QOL（生活の質）を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	ドッググッズの説明と使い方　①
第2週	ドッググッズの説明と使い方　②
第3週	応用トレーニング　①
第4週	応用トレーニング　②
第5週	応用トレーニング　③
第6週	応用トレーニング　④
第7週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう　①
第8週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう　②
第9週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう　③
第10週	応用トレーニング　クリッカー ①
第11週	応用トレーニング　クリッカー ②
第12週	応用トレーニング　クリッカー ③
第13週	応用トレーニング　トリック　①
第14週	応用トレーニング　トリック　②
第15週	応用トレーニング　トリック　③
第16週	問題行動対策
第17週	最終確認試験

3．履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材（テキスト等）
補助プリント 筆記用具
5. 単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する
6. その他
講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村・福澤・本橋・上條・得地	
科目名	グルーミング実習基礎2		必修・選択	必修	
単位数	4単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を実際に行い、飼主に適切なアドバイスができる。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。
◆概要	実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	サロントリマー2級資格試験準備

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
・技術的評価(接客・トリミング)　60%

6. その他

講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	動物美容実習基礎2		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。
◆概要	グルーミング実習2で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	トリミング実習
第2週	トリミング実習
第3週	トリミング実習
第4週	トリミング実習
第5週	トリミング実習
第6週	トリミング実習
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	中間実習
第10週	トリミング実習
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	U1

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング基礎2		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。 また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。
◆概要	犬のトレーニングの知識習得および実技を行う 実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする

2．授業内容 （週単位で記入）

第1週	犬のコミュニケーション 前期実技復習
第2週	犬のコミュニケーション までをつける
第3週	クレートトレーニング 様々な姿勢でのまつ
第4週	クレートトレーニング 様々な姿勢でのまつ　椅子取りゲーム
第5週	トイレトレーニング 様々な姿勢でまつ　犬から離れる
第6週	トイレトレーニング 様々な姿勢でまつ　犬から離れる
第7週	中間試験
第8週	ﾊﾟﾋﾟｰﾄレーニング　甘噛みへの対処 飼主の左についてあるく（右も）　おすわりやふせを組み合わせたトレーニング
第9週	ﾊﾟﾋﾟｰﾄレーニング　甘噛みへの対処 飼主の左についてあるく（右も）　おすわりやふせを組み合わせたトレーニング
第10週	飼主の体勢を変えた基本トレーニング イスに座った飼い主の足元で落ち着く　座った飼い主の指示でおすわり　ふせ　たって
第11週	飼主の体勢を変えた基本トレーニング イスに座った飼い主の足元で落ち着く　座った飼い主の指示でおすわり　ふせ　たって
第12週	犬と暮らす前に考えること 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）
第13週	犬と暮らす前に考える事 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）
第14週	発達行動学 体をさわる　はみがき 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）

第15週	発達行動学 体をさわる　はみがき 各自、誘導で様々な動きを教えるために必要なステップを検討し実践（お手　スピンなど）
第16週	後期復習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4．使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト4巻
犬のしつけ学

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%

・中間・期末試験　60%

6．その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	担任	
科目名	総合演習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数（予定）	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。

◆概要　クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画　等

3．履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示します。

4．使用教材（テキスト等）

学生の手引き等

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出席時間、取り組みにより評価

6．その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング３		必修・選択	選択必修	
単位数	１単位	授業形態	講義	年次	２年
総授業数（予定）	１７コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

１．授業の到達目的と概要

◆到達目標　本学入学の最大の目的である「希望する業種・職種で職に就く」こと、その後必要となる労働法と社会保険の基礎を学ぶ。さらに、就職後を考えた実践的英会話（ペット関係）の基礎を身に付ける。

◆概要　１年次で学習したことを再度確認する。履歴書の改正、電話応対・面接の再練習、企業情報の提供など、目標到達のためのサポートを行う。労働条件等などに加えて、今注目の働き方についても考える。実践的英会話はグループワークなどで楽しみながら身に付ける。

２．授業内容　（週単位で記入）

第1週	キャリアプラニング１、キャリアプラニング２を踏まえて、就活方法、企業・求人情報の確認。ブラック企業、働くこと、労働者とは
第2週	電子メールの書き方、電話応対、面接
第3週	学生の就活とそのサポート　求人票の見方、内定・内定取消、書面による労働条件、各種法律
第4週	学生の就活とそのサポート　休日・休暇、有給休暇、休憩時間、労働時間、時間外労働
第5週	学生の就活とそのサポート　賃金、最低賃金、割増賃金、退職金、賞与
第6週	学生の就活とそのサポート　社会保険
第7週	学生の就活とそのサポート　解雇・退職、産前産後休業・育児休業・介護休業
第8週	中間テスト
第9週	ペットビジネス英会話　英会話基礎
第10週	ペットビジネス英会話　英会話基礎　犬種と部位の英語
第11週	ペットビジネス英会話　ショップ・サロンでの受付　①
第12週	ペットビジネス英会話　ショップ・サロンでの受付　②
第13週	ペットビジネス英会話　ショップ・サロンでの接客（グッズ・フードについて）　①
第14週	ペットビジネス英会話　ショップ・サロンでの接客（グッズ・フードについて）　②
第15週	ペットビジネス英会話　ショップ・サロンでの接客（カット・サービスについて）　①
第16週	ペットビジネス英会話　ショップ・サロンでの接客（カット・サービスについて）　②
第17週	期末テスト　（課題）

３．履修上の注意

筆記用具を持参

４．使用教材（テキスト等）

就活手帳、プリント教材

５．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価OR相対評価
絶対評価で中間・期末テスト（課題）、授業態度、出席状況

６．その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	丸山　正彦	
科目名	総合ﾊﾟｿｺﾝ実習１		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2
総授業数（予定）	16コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	マイクロソフトのPowerPointでプレゼンテーション用のスライドが作成できる 作成したスライドを使ってプレゼンテーション（発表）ができる 日本情報処理検定協会主催の「プレゼンテーション検定３級」以上の検定合格を目標とする
◆概要	プレゼンテーション検定の問題を解きながら、PowerPointの基本的な操作・スライド作成方法を習得する。プレゼンテーション検定１級～３級（習熟度により受験級を選択）を受験する。仕上げとし与えられたテーマのプレゼンテーション課題を作成（発表）する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	PowerPointの初期設定、基本的な使い方 プレゼンテーション検定3級程度の問題の解法
第2週	プレゼンテーション検定3級程度の問題演習
第3週	プレゼンテーション検定3級程度の問題演習
第4週	プレゼンテーション検定2級程度の問題解法
第5週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習
第6週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習
第7週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習
第8週	中間試験 プレゼンテーション2級程度の問題
第9週	プレゼンテーション検定問題演習（希望者は1級） 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第10週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第11週	検定試験（予定）
第12週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備
第13週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備
第14週	課題発表
第15週	課題発表
第16週	課題発表

3. 履修上の注意
PowerPointを使用する 毎授業ごとに課題の提出あり（MITファイルサーバへ） 欠席（公欠含む）した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する
4. 使用教材（テキスト等）
検定過去問題のプリント
5. 単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 絶対評価を原則とする　出席10点、授業内評価（授業態度・課題提出状況）40点、 中間試験及び課題プレゼンテーション評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点　の100点満点　※注
6. その他
※注　検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある(情報リテラシー3)

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小山	
科目名	動物業界研究1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。
◆概要	人間と動物の関わり、日本と欧米の動物の関わりの相違、その背景や現状。使役動物の歴史と福祉。伴侶動物の現状と関わりや相互の影響について。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	人間と動物の関わり　　動物への関心の根拠と動物観
第2週	文学・芸術における動物との関係の歴史と日本人の動物観
第3週	動物観の歴史の変化と比較による　欧米と日本での動物の関わりの相違
第4週	動物介在介入：AAI　　動物介在活動
第5週	動物介在介入：AAI　　動物介在活動
第6週	動物介在介入：AAI　　動物介在療法
第7週	動物介在介入：AAI　　動物介在療法
第8週	中間試験
第9週	動物介在介入：AAI　　動物介在教育
第10週	動物介在介入：AAI　　動物介在教育
第11週	使役動物の歴史と福祉について
第12週	使役動物の歴史と福祉について
第13週	人のライフサイクルにおける動物の関わりに関する役割
第14週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果
第15週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果
第16週	まとめ
第17週	期末試験

3．履修上の注意

4．使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト1巻（ファームプレス）　その他

5．単位認定評価方法

評価基準：相対評価

出欠席数、試験点数、授業態度（積極性等）、課題提出状況等をもって評価とする。
6. その他
講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物疾病学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　犬や猫の生態や疾病に関する知識を持ち、健康上の異常にいち早く気づき、適切な対応ができるための疾患学の知識を習得する。また、健康管理上に必須の衛生管理の知識をつける。犬や猫のQOLの向上に貢献できるようになる。

◆概要　犬や猫の生態や疾病、消毒法や感染予防、健康管理について、ライフステージ別および部位別の特徴や注意すべき点を学ぶ。人獣共通感染症および、犬猫の主な感染症について学ぶ。
ワクチンや予防獣医療等、健康管理に必要な知識を身につける。緊急時対応（災害時含む）、グリーフケア等、動物の疾病や飼い主の心のケアに関わる基本的な重要事項について学ぶ

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	動物疾病学概論 トリミング前に確認したい全身チェックと移る病気
第2週	
第3週	
第4週	動物疾病学各論 部位別の疾病　皮膚・耳・目・鼻と口・おしりまわり・お腹まわり　足先・膝・腰まわり
第5週	
第6週	
第7週	中間試験
第8週	動物疾病学各論 部位別の疾病　皮膚・耳・目・鼻と口・おしりまわり・お腹まわり　足先・膝・腰まわり 予防すべき感染性疾患
第9週	
第10週	
第11週	動物疾病学各論 幼齢動物における疾患 雌雄で特有の疾患 中高齢期の疾患　（心疾患　内分泌疾患） 腫瘍性疾患
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う事

4．使用教材（テキスト等）

早期発見わかる犬の病気　補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う。

6．その他

講師：動物病院（小動物診療）における動物看護師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	得地 福澤	
科目名	コンパニオンアニマルケア実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	基本的な犬体チェック(バイタルチェック、身体各部の健康チェック等)をはじめとし、動物の保定法や簡易的な検査(尿検査・糞便検査等)及び検体の取り扱いを習得する。
◆概要	基本的な犬体チェックや保定法、尿検査・糞便検査等簡易的な検査の説明と実践を行う。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	犬体チェック(バイタルチェック、身体検査)、 動物の保定法
第2週	
第3週	
第4週	
第5週	尿検査概論 正常な尿と異常な尿の違い 採尿法 検体の取り扱い 尿検査 顕微鏡の扱い方
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	前期中間試験
第10週	糞便検査概論 正常な糞便と異常な糞便の違い 採便法 検体の取り扱い 糞便検査 顕微鏡の扱い方
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	耳検査　採材方法、検査方法　等
第15週	動物病院内業務を想定した器具の取り扱い　（シリンジの扱い方、薬剤関連）　等
第16週	
第17週	前期期末試験

3．履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。
挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。
生体を 扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。
学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具を扱うこと。
グループでの作業が多いため一人一人が責任を持って行動をすること

4．使用教材（テキスト等）

補助プリント

5. 単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 ・出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%
6. その他
講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での経験を活かし、手技に関するコツや知識、体験談などを加えた授業を行う。 それぞれの項目で学生自らが記入することで理解が深まるような資料を作成し、それを基に授業を展開していく。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物美容学3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマー（トリマー）としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。
◆概要	様々な犬種のペットカット、お客様対応など、実際の現場で即戦力になる為の、知識を得る

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	犬種解説シーズー
第2週	
第3週	犬種解説マルチーズ
第4週	
第5週	顔カットについて
第6週	
第7週	老犬のグルーミング
第8週	中間試験
第9週	スピードトリミングとは？
第10週	サロンの1日
第11週	毛玉の話
第12週	犬種解説ダックスフント
第13週	犬種解説ポメラニアン
第14週	マネキンカット
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・中間・期末試験　70%

6．その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス				学科コード	U2
学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	腰原	
科目名	産業動物学・実験動物学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標

産業動物学

家畜の生態や疾病の基本を学び、日本の畜産業の現状を知る事を目標とする。

実験動物学

実験動物の目的、生体の特徴やそのコントロールについて理解し、治療法の確立や薬の開発において実験動物が必要とされている背景と現状を知る事を目標とする。

産業動物分野への拡がりが期待されている事や、動物福祉等の正しい知識を持った者が家畜飼育者や実験動物飼育者にも求められるようになっているため、その分野での社会的認知度を得られる立場となれる事を目指す。

◆概要

産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業などの社会との関わりについて学ぶ。
実験動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。
産業動物や実験動物における動物福祉について学ぶ。
統一認定試験の出題傾向に合わせた内容を学習する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	産業動物の基礎概論
第2週	馬の歴史と品種、特徴
第3週	牛の歴史と品種、特徴
第4週	
第5週	綿羊・山羊の歴史と品種、特徴
第6週	豚の歴史と品種、特徴
第7週	鶏の歴史と品種、特徴
第8週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の消化器の形態と機能
第9週	
第10週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の性周期と繁殖生理
第11週	
第12週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の飼育施設
第13週	
第14週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の飼養法
第15週	
第16週	動物飼育者としての畜産業との関わり ～現場のはなし～　※特別講義を予定
第17週	評価試験

3．履修上の注意

・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4．使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト4 動物の行動と健康管理（ファームプレス社）
パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準：相対評価
出席状況、授業態度、中間・期末試験結果を総合して評価する

6. その他

講師：動物病院（小動物診療・大動物診療）における獣医師としての実務経験者

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村・福澤・本橋・上條・得地	
科目名	上級グルーミング実習1		必修・選択	必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	68コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6．その他

講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	上級動物美容実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	トリミング実習
第2週	トリミング実習
第3週	トリミング実習
第4週	トリミング実習
第5週	トリミング実習
第6週	トリミング実習
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	中間実習
第10週	トリミング実習
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング応用1		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	45コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要	
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。 飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。 問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。

2．授業内容 （週単位で記入）	
第1週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論
第2週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論
第3週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：トイレ
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：クレート
第6週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：社会化
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：遊び
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：甘咬み
第10週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論

第16週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第17週	期末試験

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4．使用教材（テキスト等）

犬と猫の問題行動の予防と対応
犬のしつけ学

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%
・中間・期末試験　60%

6．その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑	
科目名	総合実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　実習における自身の課題の追求、動物業界に貢献し得る実習や研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。

◆概要　各自、実習での習得技術内容および研究テーマ等の決定、調査・探求・実験（製作の場合もある）、データ作成、パワーポイント作成。もしくは、各種資格取得を目指す。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第2週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第3週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第4週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第5週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第6週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第7週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第8週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第9週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第10週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第11週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第12週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第13週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第14週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第15週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第16週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第17週	期末報告

3．履修上の注意

内容、進度により各自対応は異なる場合がある。

4．使用教材（テキスト等）

各自参考図書等　その他

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出欠席数10%、授業態度（積極性等）10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20%
をもって評価とする。

6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物美容学4		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	グルーマー（トリマー）としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。
◆概要	トリマー検定１級に向けてカットの復習や筆記試験対策を行う。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	犬種解説パピヨン
第2週	犬種解説ビション・フリーゼ
第3週	犬種解説MIX
第4週	犬種解説チワワ
第5週	犬種解説柴・日本犬
第6週	パピーのグルーミング
第7週	猫のグルーミング
第8週	クレーム対応
第9週	中間試験
第10週	マナー接遇
第11週	
第12週	
第13週	検定対策
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	サロントリマー1級検定　（筆記）

3．履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4．使用教材（テキスト等）

ドッグ・グルーマーズ　プロフェッショナル・ワークブック
ドッググルーミングブック
補助プリント

5. 単位認定評価方法
評価基準：絶対評価 ・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20% ・中間・期末試験　70%
6. その他
講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科(DT専攻)		担当者	本橋	
科目名	動物繁殖学		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	犬猫の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学び、正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩における助産、新生子管理や、雌雄の生殖器の疾患への理解とその看護について学ぶ
◆概要	繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生児管理、遺伝学の基礎知識を学び習得する

2. 授業内容　(週単位で記入)

第1週	犬猫の繁殖生理 生殖器の形態と機能 雌雄の生殖器(構造・機能・生理)
第2週	
第3週	主要な性ホルモン 名称及び役割と働き(産生部位・標的器官)
第4週	性成熟と生殖周期 月齢・妊娠期間・季節周期・完全生殖周期・不完全生殖周期 発情徴候、排卵・受胎可能な交配時期
第5週	
第6週	犬の繁殖 妊娠(着床・胎盤)・分娩(徴候・経過)・出産(準備・母体の看護・産子の看護) 帝王切開・新生児の管理・母犬の管理
第7週	
第8週	
第9週	中間試験
第10週	猫の繁殖 妊娠(着床・胎盤)・分娩(徴候・経過)・出産(準備・母体の看護・産子の看護) 帝王切開・新生児の管理・母犬の管理
第11週	
第12週	
第13週	エキゾチックアニマルの繋殖生理
第14週	
第15週	遺伝学 遺伝とは　遺伝様式(顕性、潜性、伴性遺伝)
第16週	遺伝学 遺伝疾患、発生異常について
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

教科書だけではなく、イラストや写真、その他資料を使いながら行っていく。
生殖器の構造をはじめとして覚えることが多数あるため事後学習を怠らないよう務める。

4. 使用教材(テキスト等)

基礎から学ぶ犬の繁殖ハンドブック
予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席状況１０％　　・授業態度（課題の提出・授業への取り組み）２０％
・中間・期末試験７０％

６．その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者
教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。
講義がメインとなるが、検査や助産に立ち会う場面での立ち振る舞いなども指導していく。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物飼育管理学2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標　小動物販売士の資格取得
業界コミュニケーション・マナーの習得

◆概要　全国動物専門学校協会の『小動物販売士』資格取得のため、小動物の販売における様々な規定や罰則、法則などについて学ぶ。
業界のマナー、コミュニケーションスキルの習得のための話法と技法について、ロープレなどを通し学ぶ。

2. 授業内容　（週単位で記入）

第1週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第2週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第3週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第4週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第5週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第6週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第7週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第8週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第9週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第10週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第11週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第12週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第13週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第14週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第15週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第16週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得
第17週	小動物販売 業界コミュニケーション・マナーの習得

3. 履修上の注意

内容、進度により各自対応は異なる場合がある。

4. 使用教材（テキスト等）

各自参考図書等　その他

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度（積極性等）10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

6. その他

動物病院（小動物診療）における動物看護師としての実務経験を生かし、動物の知識はもちろん、飼い主との対応や、各種規定を具体的に指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村・福澤・本橋・上條・得地	
科目名	上級グルーミング実習2		必修・選択	必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を70分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	中間試験
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。
講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山﨑・竹村	
科目名	上級動物美容実習２		必修・選択	選択必修	
単位数	４単位	授業形態	実習	年次	２年次
総授業数（予定）	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	サロントリマー検定１級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは１発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 ２年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	トリミング実習
第2週	トリミング実習
第3週	トリミング実習
第4週	トリミング実習
第5週	トリミング実習
第6週	トリミング実習
第7週	トリミング実習
第8週	トリミング実習
第9週	中間実習
第10週	トリミング実習
第11週	トリミング実習
第12週	トリミング実習
第13週	トリミング実習
第14週	トリミング実習
第15週	トリミング実習
第16週	トリミング実習
第17週	期末試験

3．履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4．使用教材（テキスト等）

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%
・技術的評価（接客・トリミング）　60%

6. その他

講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	U2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 福澤	
科目名	ドッグトレーニング応用2		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	45コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。
飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。
問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。

◆概要　学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。
インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。
問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第2週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第3週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第6週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第10週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献

第16週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献
第17週	期末試験

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと

4．使用教材（テキスト等）

動物看護コアテキスト4巻
犬のしつけ学

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価
・出席による評価　10%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%
・中間・期末試験　60%

6．その他

講師：JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	山﨑	
科目名	総合実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標　実習における自身の課題の追求、動物業界に貢献し得る実習や研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。

◆概要　各自、実習での習得技術内容および研究テーマ等の決定、調査・探求・実験（製作の場合もある）、データ作成、パワーポイント作成。もしくは、各種資格取得を目指す。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第2週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第3週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第4週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第5週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第6週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第7週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第8週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第9週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第10週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第11週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第12週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第13週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第14週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第15週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第16週	各自実習・調査・研究・資格試験学習
第17週	期末報告

3．履修上の注意

内容、進度により各自対応は異なる場合がある。

4．使用教材（テキスト等）

各自参考図書等　その他

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

出欠席数10%、授業態度（積極性等）10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20%
をもって評価とする。

6. その他

専門学校未来ビジネスカレッジ　シラバス

学科コード	T2

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤・本橋・小林・上條・得地・	
科目名	卒業研究・制作1		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	研究・制作	年次	2年次
総授業数（予定）	68コマ	授業場所	HR教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1．授業の到達目的と概要

◆到達目標	ペット業界に関する知識を深める。 中間試験（１１月）・期末試験（２月）に研究したテーマについての発表を行う。 「調べる」・「研究する」・「理解をする」・「人に伝える」という仕事をしていく上で必要なスキルも身につける。
◆概要	卒業論文の制作。パワーポイントを使用してのプレゼンテーション。 動物に関する疑問や興味を持ったことについて研究を行い、研究テーマの内容によって必要であれば制作物を作る。

2．授業内容　（週単位で記入）

第1週	研究・発表グループ決定/研究日程表作成/序論作成
第2週	
第3週	本論作成（研究制作）
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	中間発表用パワーポイントの作成/練習
第8週	
第9週	
第10週	中間発表 本論作成（研究・制作）
第11週	本論作成（研究制作）
第12週	本論作成（研究制作）
第13週	本論作成（研究制作） 結論/要旨作成
第14週	結論/要旨作成 目次作成
第15週	最終発表パワーポイント作成 最終発表練習
第16週	最終発表練習

第17週	最終発表練習 卒業研究・制作発表会

3．履修上の注意

インターネット上だけの調査ではなく、現場に足を運んだり、結果を実際に自分の目で確認するなど調査方法を工夫すること。授業中は論文作成に勤しむこと。課題提出期限が設けられているため、期限は厳守すること。授業時間内で研究や論文作成が間に合わない場合、授業時間外を使って完成させなくてはいけないこともある。
前期期間中に研究テーマを1人1テーマ決定しておく。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員が判断するものとする。
卒業研究に関する事前研修を前期中４時限目に3回に行う。出席は必須。
研究テーマ決定締め切り：９月１７日（金）　期限までに教員の認定が出ない学生は補講期間中登校し、後期授業開始までにテーマを決定する。

4．使用教材（テキスト等）

ノートパソコン

5．単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

・出席による評価　20%　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）　30%

・論文発表（中間・期末）　50%

6．その他

中間発表会：１１月中間試験週
最終発表会：２月期末試験週